

Richesse

リシェス

豊かさを極めたハイクオリティマガジン
FG MOOK

BEAUTY & WELLNESS

「黄金の眠り」を求めて

No.

37

FALL
ISSUE



Magazine Cloud
電子版でも読めます

FASHION

この秋はブラウンッシュ・スタイル

JEWELRY & WATCHES

運命のハイエンドウォッチ

INTERVIEW

横尾忠則、尽きぬ情熱

FEATURE

教育の未来、日本の未来

SPECIAL SUPPLEMENT

[別冊付録]

ティファニー「ダイヤモンド BOOK」

La Belle Vie à

KYOTO

パリを感じる旅へ 京都フレンチシック

富永愛がまとう
最新モード

京都アート探訪

話題の京グルメ
フレンチ&スイーツ

エッセイ&インタビュー

平野啓一郎

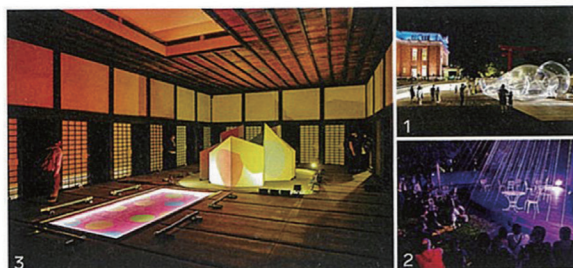
都倉俊一

名和晃平

福永祐一×

クリストフ・ルメール

話題のイベントでフランスのアートを堪能



パリの白夜祭に着想を得た、芸術の祭典
Nuit Blanche Kyoto 2021
ニュー・ブランシュ KYOTO 2021

毎年10月にパリで開催されている「ニュー・ブランシュ（白夜祭）」に着想を得て、姉妹都市・京都市の約40の会場で繰り広げられるアートイベント。11回目となる本年のテーマは、「オーゾン（展望）」。「コロナ禍の先に何があるのか？」。アーティストたちが提示する答えを感じながら、アートと過ごす秋の一夜をお楽しみください。

1 京都市京セラ美術館のライトアップ。2 アンスティチュ・フランセ関西ではコンサートも。3 二条城も会場に。（いずれも昨年の開催の様子）

Information 開催日：2021年10月1日(金) 一部は前後数週間実施 会場：京都駅ビル（オープニング）、京都市内40会場 入場料：無料 主催：京都市、アンスティチュ・フランセ関西 nuitblanche.jp/



1 ホストのひとつ、imura art galleryは、京都の現代アートギャラリー。2 新進アーティストを扱うCOHJU contemporary artも出展。3 会場となるのは国立京都国際会館。



国内外のギャラリーが協働する、注目のアートフェア
Art Collaboration Kyoto
アートコラボレーションキョウト

国内のギャラリーがホストとなり、海外のギャラリーと協働してブースを出展。現代アートに特化した、日本最大級のアートフェアが京都で開催されます。テーマである「コラボレーション」は、行政と民間、日本と海外のギャラリー、美術とその他の領域の協働を意味します。家で過ごす時間が長くなった今、自宅で楽しめるような素敵なアートを見つけるために、足を運んでみませんか？

Information 会期：2021年11月5日(金)～7日(日) 会場：国立京都国際会館イベントホール チケット：早割¥2,500（オンライン事前予約） 主催：ACK実行委員会 a-c-k.jp/



1、2、3 上京町家には珍しい正方形で、展示スペースを広くとれるうえ、天井が高いため大きな作品が映える。明治期に建てられた町家の虫籠窓や格子など外観はできる限り残した。画廊名を記した軒行灯は専門家に発注したそう。

Data
京都府京都市東山区上堀詰町265-7
tel.075-532-3001
www.tamenaga.com/



パリを魅了する和の八人展

8名の若手作家（菅原健彦、吉川民仁、中村ケンゴ、梶岡俊幸、大沢拓也、北川麻衣子、山本大也、江川直也）の多彩な作品約40点を展示する展覧会。左は江川直也さんによる広大な風景を描いた日本画。会場：ギャラリーためなが京都店 会期：開催中～2021年11月14日

パリをはじめ世界を魅了する
若手作家の創意あるアートを京都で
Galerie Taménaga Kyoto

【ギャラリーためなが京都店】

魅力あふれる作品が集う「巴里を魅了する和の八人展」
銀座の画廊「ギャラリーためなが」が、パリでの開廊50周年を迎えた今年、京都に新画廊をオープン。その京都店で、若手作家展を開催しています。これは6年前にパリで好評を得、以来続けてきたもの。「才能ある日本の若手作家の作品を世界の美術愛好家に見てほしい」と思ったことがきっかけでした。爲永清嗣さんは言います。「パリも京都も古くから文化芸術に對しての許容力が高い。さらには、どちらも世界から目の肥えた方々が集まる国際色豊かな場所です」
京都国立博物館にほど近い、「酒蔵の工場だった」この町家と出会い、「貴重な町家を取り壊すことなく、画廊として利用できればと思ったのです」と爲永さん。改装した展示室には日本画から油絵まで創意に富んだ作品がしつくりとおさまります。黒のダークマツ（色鉛筆）で幻想的なメルヘンを描き上げた作品もあれば、無駄をそぎ落としたトロンプルーイユ（だまし絵）もあり、見入ってしまうほどです。
パリで、世界的な愛好家に認められた作品も少なくないそう。「新鮮な魅力のある作品ばかり。ある意味ノンジヤンルだから、好きな作品を選んでストーリーを組み立てる、そんな楽しみ方もできます。普段それほど美術鑑賞をされない方も、心をフラットにして見ていただけたら嬉しいですね」

Profile

爲永清嗣さん、爲永亜里子さん

Kiyotsugu Tamenaga, Ariko Tamenaga

ためなが・きよつぐ●ためなが・ありこ●1969年に銀座で開廊した「ギャラリーためなが」を父から受け継いだ清嗣さん。フランスの美術関係者との交流も深く若手作家を多く育ててきた。好きだった京都を妻の亜里子さんと旅する中でこの町家に出会い、開廊に至る。

